

老 い に つ い て の 50 片

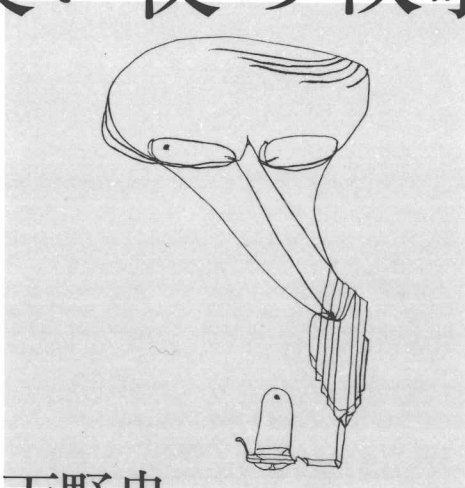
長い夜の牧歌



天野忠

老 い に つ い て の 50 片

長い夜の牧歌



天野忠

書肆山田



長い夜の牧歌*著者天野忠*一九八七年六月一〇日初版一
刷発行*装画者天野忠*装幀者宮園洋*発行者鈴木一民発
行所書肆山田東京都豊島区南池袋二一八―五―三〇一電話〇
三―九八八―七四六七*印刷シナノ印刷コーハン印刷製本山
本製本所*一〇九二―一―三三―三―四二四*定価一五〇〇円

長い夜の牧歌

——老いについての五十片

目次

22 20 18 16 14 12 10 8

考えごと

美人

老いとは

古い恋

二月

主よ！

仕返し

SPRING HAS COME

24 拡大鏡で

26 しずかな朝

28 覚悟

30 安心

32 記録

34 あの世

36 街で

38 名所

40 父と子

74	72	70	68	66	64	62	60												
用意	早魃	氷	平均寿命	変身	財政難	関白	思惑	58	56	54	52	50	48	46	44	42			
								夜沈々	希望	大事なこと	意地	血	履歴書 又は論語	老醜	商品	清水正一という蒲鉾屋の詩人がいた			

108 106 104 102 100 98 96 94 92

不明	約束	家	事件	大正と明治	人のいる風景	見えない	夜長	心中未遂	90	88	86	84	82	80	78	76
								行方	出世	路地裏	つば	相性	秋	敬老の日――テレビではどんなのがお好き？	空間について	

長い夜の牧歌

——老いについで
の五十片

考えること——PROLOGUE

ねながら

人生について考えていたら
額に

蠅がとまった。

長いこと休んでいて

それから

パッと

元氣よく飛び立った。

どうやら考えがまとまったらしい。

俺はまだだ。

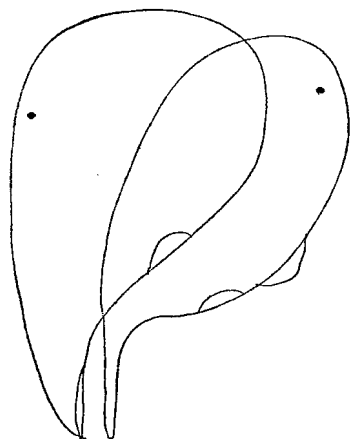
美人

むかしは
きれいなひとは
若死にした。

いまは
長生きしている。

ねながら
ひっそり
夕月を見ている。

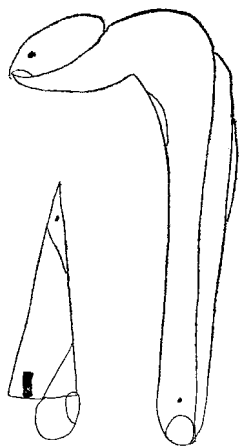
紙おむつをしてもらって。



老
い
と
は

老
い
は

成熟した青春である、と
利巧な若い作家が語った。



身うちのぞくぞくするような
素晴らしいラブ・ロマンスを
足腰の不自由な老作家が描いた。

老いは

死の方に色眼をつかいながら
宙ぶらりんになっている。

古い恋

遠い田舎からいつも

「献寿」と

たった二文字の年賀状が

ぶつりと糸の切れたように

来なくなつて

二年目。